



## 「努力のつぼ」

秋もいよいよ深まり、木々の葉も見事に色づく季節となりました。11月は別名「霜月」（しもつき）とも言われ、冷気が日ごとに増す頃となりますが、「神楽月」（かぐらづき）という異名からは、色鮮やかな紅葉とともに文化や芸術の香りを感じさせてくれる季節でもあります。

本校の朝の様子を見ていますと、登校をしてくる子ども達は大半が元気な笑顔であいさつをしています。しかし、中には下を向き元気がなく、声をかけてもあいさつができない子もいます。あいさつができていない子は一日の生活リズムが乱れていることが多いようです。**その元気なあいさつを支えているのが「早起き」**なのです。子どもの**早起き習慣は、基本的な生活習慣の中でも極めて大切**です。生活リズムをしっかりと作ると、時間的に余裕が出てきて、怪我もなく体調も良くなります。そして心に余裕も出てきます。子どもたちが元気で楽しく笑顔で学校生活を送れるように、一日のスタートに早起きをぜひ実行させていただきたいと思えます。

さて、自然学校、修学旅行、体育大会、図工展、市内音楽会等の様々な学校行事・学年行事を通してどの学年もどの子も努力を重ね、心も体も成長してきています。

**「努力のつぼ（壺）」**という言葉がありますが、人は何か新しいことに挑戦し、努力すると「つぼ」に水が溜まってくるようです。**このつぼは人それぞれによって大きさは違い、どれぐらいの水が溜まっていくのかはわかりませんが、努力をつぼに入れ続け、水が溢れた時に物事が達成できる**ようになっているようです。

先日、職員室前の廊下を真剣な表情で、鉄琴か木琴をたたくそぶりをしながら歩いている4年生の女の子がいました。きっとアルカイックホールで行われる市内音楽会に向けて、練習を頑張っているのでしょう。本番の11月9日まであと少しです。あれだけ一生懸命にやっていたら、本番までにはつぼの水が溢れ、気持ちよく鉄琴か木琴をたたけるようになれると思えました。

また、今月はマラソンが始まり、図工展があります。図工展に向けて、子どもたちは作品を一生懸命制作しています。努力を重ね少しずつ完成に近づいていく作品を見ていると23日の図工展がとても楽しみです。

努力のつぼとは、**人の可能性が努力を続けることで結果に表れてくる**というたとえです。**行動をしないと可能性はずっと可能性のままで終わってしまいます**。努力をして初めて手ごたえを感じていくものです。その努力を支え、一人一人の子供たちに笑顔が溢れるように、学校・家庭・地域がともに協力して支援をしていけると願っております。夕暮れが早くなってきました。朝夕の冷え込みで、体調を崩す子どもたちも多いようですので、皆様もぜひ健康にはご留意ください。11月も子どもたちの笑顔がいっぱいになり、元気に学校生活を送れることを願っています。